

シンポジウム 気候 変動 難民

影響・対策・責任を
どう考えるか

2017. 10. 30 日

14:00 - 17:30 (13:30 開場)

会場 日本橋ライフサイエンスハブ 会議室 A
東京都中央区日本橋室町 1-5-5 室町ちばぎん三井ビル 8F

定員 100 名

資料代 学生・FoE 会員 500 円、一般 1,000 円

言語 日本語 / 英語 (逐次通訳付き)

申込み FoE Japan のホームページより
<http://www.foejapan.org/climate/lad/171030.html>

問合せ 国際環境 NGO FoE Japan (担当: 深草)
tel 03-6909-5983 fax 03-6909-5986 email fukakusa@foejapan.org



本シンポジウムは、人間文化研究機構北東アジア地域研究事業「北東アジアにおける地域構造の変容：越境から考察する共生への道」、東北大学東北アジア研究センター「東北アジア地域の環境・資源に関する研究連携ユニット」および東北アジア研究センターユニット「東北アジアにおける大気環境管理スキームの構築」と国際環境 NGO FoE Japan の共催です。

シンポジウム 気候変動難民—影響・対策・責任をどう考えるか

2017年10月30日(月) 14:00-17:30 (13:30 開場)

気候変動(熱波、豪雨、干ばつ、ハリケーン、洪水、海面上昇など)によって、住居を失い、生計手段を奪われ、命を落とし、難民化する人々が世界中で急増しています。特に、途上国に住む人々や、先進国においても貧困層が影響を受けやすく、格差を広げる要因ともなっています。気候変動難民が軍事的な紛争の要因の一つとなっているという認識も広まっています。国連での気候変動交渉では、気候変動による被害の責任・補償問題が大きな焦点になっており、企業の温室効果ガス排出行為や政府の不作為を巡る裁判も各地で起きています。

本シンポジウムでは、気候変動による移民・難民問題を専門とする海外の専門家3人から最新の研究動向について伺います。その後、キリバス共和国名誉領事、日本の研究者、インドネシアの現場で気候変動適応プログラムに取り組む FoE Japan メンバーなどといっしょに、現状の課題と今後の対策、どのように気候正義(クライメート・ジャスティス)を実現していくのか、多角的に議論していければと思います。

登壇者

ニナ・ホール 「気候変動難民の全体状況と国際機関の役割」

米ジョンホプキンス大学国際関係学科准教授

研究テーマ：地球規模難民ガバナンス。特に、気候変動と開発、多国間アドボカシーなど。

Prof. Nina HALL



ジョン・キャンベル 「太平洋島嶼国における気候変動難民の現状と課題」

ニュージーランド・ワイカト大学地理学准教授

研究テーマ：太平洋島嶼国における気候変動適応、減災、難民・移住など。

Prof. John R. CAMPBELL



ブノワ・メイヤー 「アジアにおける気候変動難民および法的問題」

香港中文大学法律学部助教

研究テーマ：難民・移住に関する法的問題。「国際法と気候変動(2018年刊行予定)」を執筆中。

Prof. Benoit MAYER



コメンテーター

オノ・ケンタロウ 在仙台キリバス共和国名誉領事

明日香壽川 東北大学東北アジアセンター／環境科学研究科教授

小野寺ゆうり FoE Japan 顧問 **柳井真結子** FoE Japan 委託研究員(気候変動と適応担当)

会場

日本橋ライフサイエンスハブ 会議室 A

東京都中央区日本橋室町 1-5-5
室町ちばぎん三井ビル 8F

東京メトロ銀座線・半蔵門線
「三越前」駅直結



このイベントは一部地球環境基金、緑の地球防衛基金の助成を受け開催しています。